

【2016年3月26日】

平成27年度 学位記授与式



今朝も快晴でした。スマートフォンのお天気情報によると、最低気温は1度。昨日に比べれば風は穏やかでしたが、最高気温は13度。僅かに冬を感じさせられた気分です。ソメイヨシノは開花のスピードを緩めている感じがしました。

commonsセンターがオープンして一年が経過します。はじめてのことばかりで、一生懸命前に向かって走って来ました。気が付けば、一年経っていたと言うのが今の実感です。この一年、利用してくれた学生はもちろんですが、支えて下さった沢山の方々に感謝しています。まだ一年、人間で言えばやっと歩き出したところです。二年目は、より一層、人と人とのつながりを大切にしたいと考えています。みんなが、明るく、元気で、笑っていただけるような場所を目指して、一生懸命やりたいと思います。二年目のcommonsセンターにご期待ください。

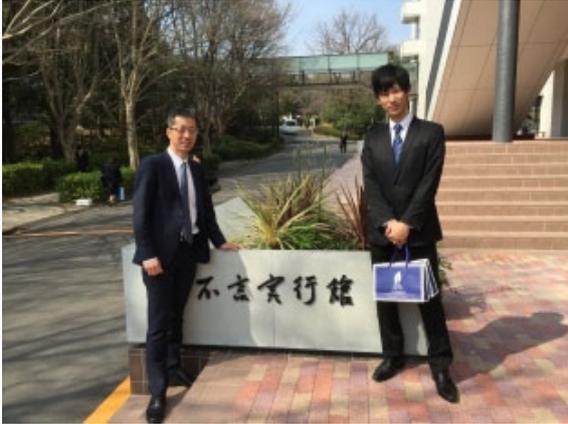
本メッセージも12回目を迎えます。毎月、想像を超えるアクセス数に驚いています。読みにくい文章を読んで頂いている皆様に、心より感謝申し上げます。私の実感は、「良く続いたなあ」です。中部大学のcommonsセンターを学生の皆さんに“知って欲しい”、“使って欲しい”との動機から始めました。一年が経過しますので、このメッセージを読み返してみましたが、何とも恥ずかしいものでした。ただ、このメッセージを側で支えてくれるスタッフの事を忘れてはなりません。commonsセンター事務室の梅原課員です。HPの割り付けやデザイン、関連画像の選択など、実に多くの力をお借りしてこのメッセージが皆さんのお目に留まることに至る訳です。もちろん、原稿の督促は毎月です。梅原課員の支えが無かったら、三日坊主ならぬ3回程度で終わっていたに違いありません。この場を借りて、御礼申し上げます。本当に、ありがとうございます。

さて、本題です。3月23日、平成27年度 中部大学・中部大学大学院学位記授与式が挙行されました。学部2,207人、大学院113人(内博士7人)が卒業し、社会や大学院へと活躍のステージを変えるため、中部大学を巣立って行きました。中部大学での研鑽の結果が、卒業であり、皆さんが手にした学士の学位記は、中部大学で学問・物事の基礎を習得したことを証明するものです。また、修士・博士の学位記は、学びを研究成果に展開させたことを証明するものです。大学で習得した技術や知識は、そのままでは実践できないと感じているかもしれませんが、皆さんが経験を重ね、学生時代を振り返るころ、大学での学びを仕事や社会で生かすことについて実感すると思います。その時が来るまで、失敗することを恐れずに挑戦し続けてください。

今年も、学部・学科、自研究室の所属学生やcommonsサポーターをはじめ、印象深い学生を多く送り出す事ができました。私は、皆さんの

人生の大切な時期に関わりを持てたことを「誇り」に思っています。随分いろんな幸運に助けられて仕事をやって来ましたが、君たちに出会えたことも幸運の一つです。これ以上、幸運を望むのはいけないのかも知れませんが。

最後に、皆さんの進む道は人それぞれ違います。しかし、将来、再び交わる事があるはずです。その時は、中部大学の卒業生として、誇れる出会いをしてください。今、社会には解決すべき多くの問題があり、大きく変動しています。どうぞ、生命(いのち)を粗末にせず、お身体を大切に。健闘を祈ります。卒業、おめでとうございます。



コモンズサポーターを修了した卒業生の宮崎さんと。



スポーツ保健医療学科伊藤研究室の卒業生と。



コモンズサポーターを修了した中村くんが卒業生代表の謝辞を述べました。

コモンズセンター長 伊藤 守弘